

公園の保全と地域社会の参加

大雪山国立公園では、手付かずの環境を保全しながら、その美しい景色をハイカーやコミュニティの人々も楽しめることを目標としています。保全活動には、ボランティア活動、携帯トイレの利用促進、マイカー規制、ハイキングコースのグレード指定、寄付金集めなどが含まれます。

ボランティア活動

アメリカやオーストラリアなどの完全に公共となっている公園とは異なり、日本の国立公園には、その土地で生計を立てている個人所有の土地も含まれています。大雪山国立公園に暮らす人々は、ボランティア活動への参加などを通して地域社会に還元しています。活動の例としては、コースの保全、山小屋への必需品運搬、笹（チシマザサ）などの侵入生物種の管理、蝶の乱獲や高山植物の収集防止のためのパトロールなどが挙げられます。

ボランティアの主な活動は、ハイキングコースの保全です。大雪山のハイキングコースは主に緩い土壌でできており、浸食の被害を受けやすくなっています。降雨、雪解け水、踏みつけなどは浸食の原因となり、コース沿いの繊細な植物を傷つけてしまうことがあります。保全活動には、踏みつけ防止のためのロープ張りや石壁の設置などが含まれます。

携帯トイレ

大雪山の一部のキャンプ場にだけ、トイレが設置されています。人間の排せつ物や正しく破棄されなかったトイレトーパーなどは環境に悪影響を及ぼしかねないため、ハイキングの際は使い捨ての携帯トイレ袋を持参するようお願いしています。トイレ袋は購入が可能で、登山口付近の指定エリアで破棄することができます。

マイカー規制

高原温泉や銀泉台などの人気のスポットでは、ピークとなる秋には、公園内の多くのエリアにマイカー規制が設けられます。このおかげで渋滞が緩和され、排気ガスも軽減されます。この時期、多くの場でシャトルバスが運航されます。事前にサービスの内容や運行時間を確認しておきましょう。

ハイキングコースのグレード

大雪山のグレード制度は、公園のハイキングコース保全に役立てるため、大学の研究院と提携して考案されました。コースの難易度や、自然環境の脆弱性を理解するためのガイドラインとして使用されています。グレードにより、各コース管理における人による介入の程度が決まります。低いほど開発が進んでいて、コースのメンテナンスや設備が整っていることを意味します。グレードが高いコースは起伏が激しく、環境をそのまま保全するため、標識や避難所・設備が少ないことを意味します。

資金集めの取り組み

地方自治体が後援する一部の協議会では、コースのメンテナンスや生態回復といった保全の取り組みについて、来訪者による募金を推奨されています。山小屋やトイレ入口で募金が可能です。環境省では、集まった募金を使ってコースのメンテナンスや野生生物の保全に役立てています。

コースや野生生物への被害防止のためにできること：

- トレッキングポールに保護キャップを付けましょう。
- 雪や雨水でふさがっている場合でも、指定のコースから外れないようにしましょう。コース上の雪やぬかるんだ場所を進む際は、安全のためゲートルを履きましょう。
- 植物、花、石など、公園からは何も持ち帰らないようにしましょう。
- 携帯トイレを持参しましょう。
- ゴミは持ち帰りましょう。
- 野生生物には餌を与えないようにしましょう。